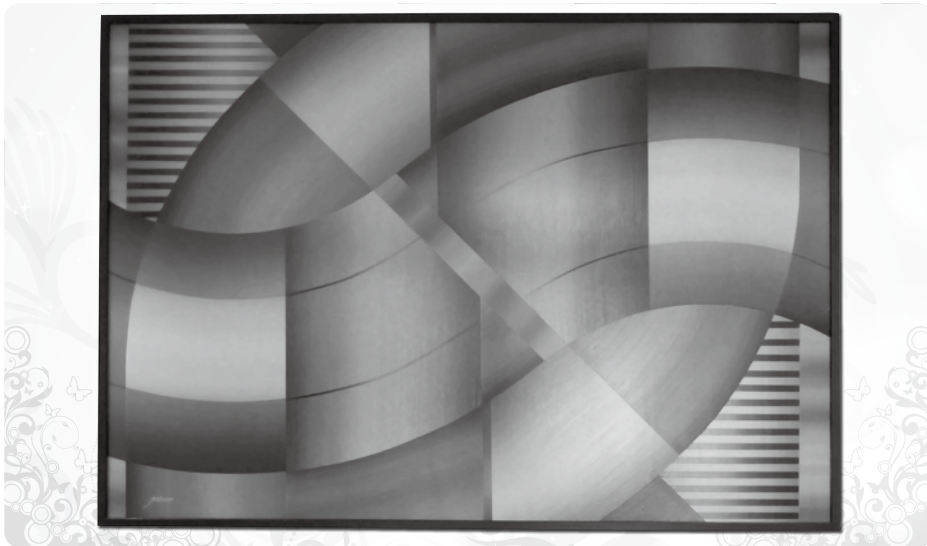




揮毫 伊藤茂男氏
 鎌田地区
 平成 29 年 7 月 1 日 現在
 世帯数 8,847 戸
 男 9,925 人
 女 9,498 人
 発行所 鎌田地区公民館
 公民館報編集委員会

洋画家・有賀由延さんの絵画「星霜」が 鎌田地区公民館に寄贈されました



有賀由延さん(洋画家、庄内)に7月5日、公民館へお越しいただき、寄贈いただいた作品のお披露目をしました。

有賀さんは元松本市職員で、長く社会教育(公民館)の仕事に携わるかたわら、画家としても36歳で国画賞を受賞しています。44歳で市役所を退職後は画業に専念、今年5月には50年に及ぶ画業を振り返る個展「夢と心の世界」が開催されました。

このたびの寄贈にあたっては、有賀さんと親しい狭間壮さん(声楽家、両島)に橋渡しをいただきましたが、作品は心象風景を描いたアクリル画で、縦115センチ、横165センチの大作です。

タイトルの「星霜」は、年月・歲月の意味で、いわば過去と未来をつなぐ言葉であり、人生の歩みや時の流れ、未来への願いを表現しています。

有賀さんは「かつて自分が働いていた公民館という場所に飾っていただき、嬉しい」と笑顔で話しておられました。長年にわたり社会教育の発展を推し進めてこられた有賀さんの思いに込められるよう、鎌田地区公民館は今までも増して地域住民の学習活動の拠りどころでありたいと念じています。

作品は1階のロビー正面に展示しています。公民館へお越しの際にはぜひご覧ください。



街かどの話題 138
 穴田川の
 一斉清掃
 井川城上区
 町会長 小池 眞之

芳川地区の湧水を源に、南松本、井川城、鎌田を経て田川に合流する穴田川は、かつては山葵を栽培できるほどの清流でしたが、高度経済成長期以降、周辺の工場排水や生活排水が流入して、一時は松本市内で最も汚い川と言われていました。

そのため流域の町会や企業が「穴田川をきれいにする会」を結成して、以前の清流を取り戻そうと川の清掃に努め、現在では水鳥の憩う、きれいで美しい川になっています。

井川城上区町会でも年2回の一斉清掃を実施しており、今年6月4日に130名を超える住民が参加して、200袋を超える雑草や水草、多数の空缶やペットボトル等を回収しました。

多くの住民が参加する一斉清掃は、町会内のコミュニケーションの活発



穴田川の清流

岸に密集した1メートルにもなる雑草を鎌で刈り取ったり、高い所では5メートルにもなる護岸に水草をあげたりするのは大変な重労働です。岸にあげた水草を袋に詰めるので、全身が泥まみれになる作業です。

そこで少しでも作業を軽減して、老若男女の住民が大勢参加できるように、昨年からヒーパーによる草刈りを委託し、丈夫の長い草を事前に短く刈っておくようにしました。これらにより当日の作業の軽減ができ、よりきれいな清掃の実施が可能となりました。

今後ますます高齢化が進みますが、様々な工夫をしながら、多くの住民が参加できる町会の重要な行事として、穴田川の一斉清掃を実施していきたいと考えています。

オレンジカフェ かまだ

7月7日(金)、鎌田地区公民館で「オレンジカフェかまだ」がオープンしました。



カフェを運営する
オレンジレディースの皆さん

このカフェは物忘れが気になる方や認知症に関心のある方など誰もが気軽に集い、心が和むぬくもりのある居場所になってほしい、そして鎌田地区町会の結びつきとつながりを大切に、地域に根ざした鎌田らしいカフェを目指していきたいと考えてスタートしたものです。初回は七夕の日ということもあり、短冊に願い事を書いて笹竹に飾り、七夕まんじゅうをいただいたり、「七夕さま」や「ふるさと」の歌を合唱し、会場一杯の参加者が和やかな楽しい時間を過ごしました。

「悩み事など話ができなくて良かった」「今日はありがとう」などの感想が寄せられ、スタッフはやさしさと元気をいただきました。今後も毎月第一金曜日の午後1時30分から開催します。ぜひお越しください。



●第60回 鎌田地区球技大会●

7月9日(日)、鎌田地区体育協会(鎌倉弘行会長)の主催で、第60回鎌田地区球技大会が開催され、30度を超える暑さの中、町会対抗で熱戦が繰り広げられました。



種目	優勝	準優勝	3位	
野球	両島	荊川中	荊川下	笹部
卓球	鎌田	南原	石芝	—
ソフトバレー	ブロンズ	南原	征矢野	荊川中
	シルバー	高宮	南原	笹部
ゲートボール	笹部	—	—	—
マレットゴルフ	男性	南原	笹部	両島
	女性	月見町	五月町	南原
総合	南原	笹部	両島	—

外来植物を学ぶ

6月9日、外来植物の観察会を福祉ひろばの「歩こう鎌田ウォーキング」とのコラボにより開催しました。鎌田地区内にもたくさんの外来植物が群生していますが、その中には駆除対象の特定外来植物が3種(アレチウリ、オオキンケイギク、オオカワジシャ)あることなどを知ってもらうために毎年企画している講座です。

今年も自然観察指導員の村上さよ子さん(五月町)に講師をお願いし、20名を超える参加者が鎌田地区公民館からスタートして奈良井川沿いの土手を南下し、月見橋から笹部・征矢野町会を経て、高宮・鎌田町会の国道19号沿線まで、2時間半をかけて熱心に見て歩き

ました。途中、何か所かで立ちどまり、講師から外来植物を手にとり細部にわたる説明を受け、名前を覚えたり質問をしながら、納得のいくまで観察しました。

いつも何げなく見ているきれいな花が、実は駆除すべき外来植物である現実を目のあたりにして、驚いている人もいました。

外来植物ばかりでなく、他の花や植物の観察会もぜひ開催してほしいなどのうれしい意見も出され、主催者としても有意義な講座となりました。(文化委員会 林 清吉)



地域に根ざした 児童センターで ありたい

鎌田児童センター
館長 清水 博子

児童センターは児童健全育成を図ることを目的として、18歳未満のすべての児童が利用できる施設です。

鎌田地区には鎌田児童センターと、高宮児童センターの二つの児童センターがあり、どちらも松本市の委託を受けて、松本市社会福祉協議会が管理運営をしています。

児童センターには二つの事業があります。ひとつは、留守家庭児童を対象に、登録制(有料)で一年生から六年生までの児童を預かる「放課後健全育成事業」です。

平日は12時30分から19時まで、学校休業日は8時から19時まで開館しています。全体の登録児童数も増えていますが、なかでも19時まで利用する児童が増加傾向にあり、保護者の就労支援としてセンターの果たす役割はますます重大になってきています。

もうひとつの事業は、未就園児を対象にした「つどいの



広場事業」です。月曜日から金曜日の9時から午後2時まで開館しており、親子の交流の場として利用できます。

さて、鎌田・高宮の二つの児童センターの特徴として、秋に行われる公民館・福祉ひろばとの共催行事「合同ウォーキング」があります。

鎌田児童センターには鎌田小学校の児童が、高宮児童センターには開明小学校の児童が登録をしています。合同ウォーキングは、センターも学校も違う子ども同士がふれ合う行事であり、地域の方との交流の場としても良い経験になっていると思います。鎌田地区の子どもたちがひとつになろうという面からも、続けていきたい行事です。

今後子どもたちの安心安全を第一に、鎌田地区の子どもたちの健全育成の担い手として、職員一同、一丸となって取り組んでいきたいと思っております。